

高校生 I C T 2016 Conference

in 長野

「ネットトラブル! どうする? 【予防】と【対策】

～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」

開催報告書

2016年10月1日(土) 10:00-17:00

【会場】安曇野市明科公民館

主催

長野県教育委員会

安心ネットづくり促進協議会

大阪私学教育情報化研究会

一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構

一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会

共催

内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、消費者庁



2016年12月5日

目 次

1. 開催概要	1
2. 高校生 ICT Conference 2016 地域開催	3
3. 高校生 ICT Conference 2016 in 長野 開催概要	4
4. 主担当	11
5. 高校生 ICT Conference 2016 サミット	12
6. 高校生 ICT Conference 最終報告会	12
7. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応	12

1. 開催概要

名 称：	<p>高校生 ICT Conference 2016</p> <p>テーマ：「ネットトラブル! どうする? 【予防】と【対策】 ～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」</p>
主催：	<ul style="list-style-type: none"> ● 長野県教育委員会 ● 安心ネットづくり促進協議会 ● 大阪私学教育情報化研究会 ● 一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構 ● 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会
共催：	内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、消費者庁
後援：	<p>一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会、特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構、独立行政法人情報処理推進機構、公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所、全国高等学校情報教育研究会、北海道、北海道教育委員会、北海道高等学校 PTA 連合会、北海道私立中学高等学校協会、北海道青少年有害情報対策実行委員会、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、宮城県高等学校 PTA 連合会、新潟県教育委員会、新潟県高等学校長協会、新潟県高等学校 PTA 連合会、石川県、石川県教育委員会、石川県高等学校長協会、石川県高等学校 PTA 連合会、北陸携帯電話販売店協会、静岡県、静岡県教育委員会、静岡県公立高等学校 PTA 連合会、東京都教育委員会、東京都高等学校情報教育研究会、神奈川県教育委員会、大阪府高等学校情報教育研究会、奈良県、奈良県情報教育研究会、奈良県教育委員会、青少年を有害環境から守る奈良コンソーシアム、高知県教育委員会、高知新聞、福岡県公立高等学校長協会、福岡県私学協会、福岡県公立高等学校 PTA 連合会</p>
協賛：	<p>グーグル株式会社、株式会社サイバーエージェント、株式会社ディー・エヌ・エー、株式会社ラック、グリーン株式会社、LINE 株式会社、エースチャイルド株式会社、株式会社メディア開発綜研、Twitter Japan 株式会社、一般社団法人情報教育研究所</p>
協力： (順不同)	<p>アルプスシステムインテグレーション株式会社、株式会社内田洋行、株式会社 NTT ドコモ、KDDI 株式会社、ソフトバンク株式会社、デジタルアーツ株式会社、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構、特定非営利活動法人浜松子どもとメディアリテラシー研究所、NPO 法人 e-Lunch、株式会社朝日出版社、ストップイットジャパン株式会社、特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム</p>
開催目的：	<p>高校生 ICT Conference は、2011 年度に「ICT プロジェクト 高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方&活用法～」として大阪でスタートしました。2012 年度は、東京開催を加え計 17 校 79 人の高校生が参加し、2013 年度は、東京・大阪に加え、北海道、奈良、大分を新たに加えて 5 拠点にて開催し、計 51 校 267 人の高校生が参加しました。2014 度も同 5 拠点にて開催し、計 44 校 221 人の高校生が参加しました。2015 年度は、より全国的な規模での展開に向けて、新たに石川、長野、神奈川、福岡を加えた 9 拠点にて開催し、計 78 校 310 人の高校生が参加しました。</p> <p>さらに当事者たる高校生の意見を中央に届けるべく、各地域の代表者はサミットにより提言をまとめ、内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省で発表を行いました。</p>

	<p>高校生 ICT Conference の開催目的には、二つの側面があります。その一つは、教育的側面であり、初対面の人と話し合うという経験の中で、段階的に「考え、まとめる、聞く、話す、見せる、伝える」などの技術を修練することです。第二に社会的に注目を浴びている携帯電話やインターネットをテーマとすることで、大人になる準備段階として、携帯電話やインターネットを安心して安全に使うために、高校生として情報モラルについて自ら深く考え、実践することで、将来のより良いインターネット利用環境の構築の一助とすることです。</p> <p>※平成 21 年 4 月から施行された「青少年インターネット環境整備法」に基づき、青少年が安心・安全にインターネットを利用するための環境整備が始まった。民間の自主的・主体的取組が鋭意進められていると共に、行政府に於いても施行状況の検討が進められている。一方、新学習指導要領が平成 23 年度の小学校を皮切りに、平成 24 年は中学校、平成 25 年度は高等学校で全面实施される。また、急速に普及を始めたスマートフォンや新しい ICT（情報通信技術）サービスにおいて、青少年が健全に ICT を利活用できるように育成するため、青少年への指導に加え、保護者や教職員への「情報モラル教育」の啓発活動が重要視されている。今年度は、スマートフォンの登場などにより急速に変化したインターネット利用環境下における諸問題について議論し、高校生が家庭や学校で取り組むべき課題とともに、行政、事業者等への要望について本取組で提案し参考に資する。</p>
開催の概要：	<p>【各開催地での内容】 ※日程は、2. 地域開催の欄をご覧ください。</p> <p>(1) 挨拶 (2) 講演 (3) アイスブレイク (4) 熟議 (5) グループ発表 (6) 講評 (7) サミット参加者発表</p> <p>【東京サミット】</p> <p>(1) 挨拶 (2) アイスブレイク (3) 提言のための熟議 (4) 提言発表 (5) 講評 (6) 最終報告会参加者発表</p> <p>【最終報告会】</p> <p>(1) 各府省庁への提言発表（プレゼン） (2) 質疑応答・意見交換</p>
各開催地 募集人員等：	<p>募集参加生徒 30 名 募集見学者各回 30 名（各開催地により変動あり）</p>
参加参観方法：	<p>参加費・参観無料 [要事前登録]</p>
高校生 ICT Conference2016 実行委員会：	<p>【委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 米田謙三（大阪私学教育情報化研究会 副会長） <p>【コアメンバー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 石田幸枝（公益社団法人全国消費生活相談員協会 IT 研究会代表・消費者団体訴訟室長） ・ 猪股 富美子（お茶の水女子大学 人間発達科学研究所） ・ 植田 威（特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム理事） ・ 小城 英子（聖心女子大学） ・ 齋藤長行（青山学院大学 株式会社 KDDI 研究所）

	<ul style="list-style-type: none"> 他、関係者団体、事業者等 <p>【事務局】 安心ネットづくり促進協議会 〒104-0031 東京都中央区京橋三丁目 14 番 6 号 斎藤ビル 2 階 TEL: 03-3562-8850 FAX: 03-3562-1180</p>
--	--

2. 高校生 ICT Conference 2016 地域開催

高校生 ICT Conference 地域開催では参加した高校生がテーマに沿った議論を実施し、サミットへ行く代表者を選抜します。

	地域	開催日時	会場
地域 開 催	北海道（札幌）	2016年10月16日（日）11:00-17:00	札幌ユビキタス協創広場 U-cala
	北海道（帯広）	2016年10月15日（土）11:00-17:00	とかちプラザ
	宮城	2016年8月22日（月）10:00-17:00	東北工業大学 一番町ロビー
	石川	2016年9月19日（月）10:00-17:00	石川県女性センター
	長野	2016年10月1日（土）10:00-17:00	安曇野市明科公民館
	新潟	2016年8月20日（土）10:00-17:00	ガレソホール
	東京	2016年9月4日（日）10:30-17:00	東京ユビキタス協創広場 CANVAS
	神奈川	2016年9月11日（日）10:00-17:00	岩崎学園
	静岡	2016年9月25日（日）10:00-17:00	静岡電子情報カレッジ
	大阪	2016年8月28日（日）10:00-17:00	大阪ユビキタス協創広場 CANVAS
	奈良	2016年10月2日（日）10:00-17:00	帝塚山大学 東生駒キャンパス
	高知	2016年8月23日（火）9:30-16:30	ちより街テラス
	福岡	2016年8月18日（木）12:30-17:00	アクロス福岡
	大分	2016年10月2日（日）10:00-16:00	アイネス、大分県消費生活・男女共同参画プラザ
東京サミット	2016年11月3日（木）13:00-17:00	東京ユビキタス協創広場 CANVAS	
最終報告会	2016年12月中旬頃		

東京サミットへは各地域で独自で実施した情報モラル・リテラシー啓発サミットからのオブザーバー参加者を招待予定。（サミット熟議のみ参加）※2015年度実績：沖縄、福井

3. 高校生 ICT Conference 2016 in 長野 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など 85 名の参加者を得て、「ネットトラブル! どうする? 【予防】と【対策】～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>〈開会あいさつ〉 (長野県教育委員会事務局 教育次長 菅沼 尚氏) 長野県は今回で2回目の開催となり、昨年度より多くの学校が参加した。今年のテーマは『ネットトラブル! どうする? 【予防】と【対策】』ということにより具体的になり討議しやすいのではないかと。普段話す機会がない他校の高校生同士がこの機会に、横につながることを大事にしてほしい。この ICT カンファレンスにとどまらず、外部にも情報発信してほしい。ぜひ楽しみながら討議をしてほしい。</p> <p>〈来賓あいさつ〉 (総務省信越総合通信局 情報通信部電気通信事業課 課長 中島 淳氏) 総務省総合通信局ではインターネット指針やトラブル事例の紹介など、ネットの安心安全に取り組んでいる。ICT カンファレンスの機会を利用して高校生が自らインターネットについて積極的に考え、話し合いを深めていただくことを期待している。</p> <p>〈第一部：事業者講演〉 (ソフトバンク株式会社 約款・サービス部 氷見 彩乃氏) フィルタリングは高校生の安全利用に重要な機能だが、加入者が減少していること、スマートフォンは利便性が高いが犯罪被害にあうリスクもあり、あらためて高校生はフィルタリングの意義について考えてほしい。 2 つ目のテーマとして、人工知能が近い将来に人類を超える状況となる。そのような前提で進化し続ける道具をどう使っていくかを考えなければならない。</p> <p>(一般社団法人 インターネットコンテンツ審査機構 代表理事付・理事 西澤 利治氏) どうすれば低年齢ユーザーにインターネットの安心安全リテラシーを指導できるかについて、一定の知識を持つ人、例えば大学生や高校生など年齢の近い「先輩」が地域のリーダーとして体験的に助言するのが有効と考える。ネットトラブルの対応には正解がない。解決策を考え見つけていくことが重要となる。</p>
----	--

《第二部：グループ発表》

Gグループ

インターネットとスマホの危険性を技術面で解決できる問題（ウイルス感染やのとり等）と人の意識で解決できる問題（スマホ依存等）に分類。解決策を議論する場を高校生が呼びかける場を設定。ICTカンファレンスの学校版を開催。ICTカンファレンスに出席している高校だけでなく、出席していない高校や小中学校にも広めていく。ウイルス感染など疑似体験できるアプリを企業と協同で開発したり、町と協同で歩きスマホの禁止区域を設定したり啓発ポスターを貼付する取り組みを実施したい。スマホ世代が中心となって世の中のリテラシー向上に貢献していきたい。

（質問：ソフトバンク 石原氏）

参加していない高校や小中学校にICTカンファレンスを広めるとあるが、具体的なアイデアは？

⇒昨年の取り組みでは、動画を作成した。アイデアベースだが、啓発の歌を作成して様々な場所で流すというアイデアも考えられる。

Aグループ

スマホの課題を「ながらスマホ」「ネットでの悪口」「SNS写真」の3つの視点から具体的な解決策を議論した。「ながらスマホ」では、例えば歩きスマホを検知するとアプリが停止する機能を開発したり、歩きスマホ専用道路を作ってはどうかという意見が出た。「ネットでの悪口」に関しては、悪口を書かれたらどう思うか疑似体験してもらおう。特に小学校で実施したい。「SNS写真」では、SNSに写真を載せる際、すぐに載せるのではなく、アラートが出る仕組みをスマホに実装できないか。本当に載せてもよいかどうかを考えることが重要である。多くの人に知らせるために講演会やトラブル相談会等を実施し、今回のカンファレンスに参加していない学校にも知らせていきたい。

（質問：ソフトバンク 氷見氏）

講演会実施について具体例があれば教えてほしい？

⇒中学生に対して高校生の目線でリスクの注意点について実施したことがある。

Cグループ

個人情報流出を止めたいと考えている。4つの段階にわけて対応策を考えた。

- ①個人情報流出の具体例を知ってもらって、個人情報の大切さを知ってもらう。
- ②実際の流出事件に遭遇した場合、自分で変更できるメールアドレス等は変更する。流出させている犯人に対し情報の拡散をしないよう要請し、解決しない場合は警察に通報する。
- ③解決策を自分たちでパワーポイントや動画を作成して授業や講演会でプレゼンテーションする。ある高校ではルールブックをすでに作成している。
- ④発表する機会を先生や企業に作ってもらい、他校との連携やICTカンファレンス

を活用する。

(質問：インターネットコンテンツ審査監視機構 松原氏)

取組みを実行して広げていくために出来る具体策はあるか？

⇒ICT カンファレンスもよい機会。他校を訪問したり来てもらうアイデアもある。
ルールブックを作成した経緯は？

⇒全校生徒にもっと浸透させたい思いがきっかけとなった。

Fグループ

問題をSNS、ネット依存、ネット詐欺に分類し議論した。ネット詐欺は疑似体験アプリを作成し、小学生や保護者に体験してもらう。例えば、店頭で契約する際、詐欺被害に合う割合で、体験が出るクジを実施してもらい、比較的多く被害に合うことを自覚してもらうことを考えた。また、携帯電話会社のCMに青少年対策の内容を加えてもらったり、ラップ調の歌（スマホの正しい使い方）を作成して様々な場所で流せば浸透するのではないか？

携帯電話会社にはフィルタリング付プランを設定してもらい、料金を安くしてもらうなど協力してほしい。例えば相談窓口の電話番号を事前に登録しておく等トラブルに強いスマホの開発もお願いしたい。安全なWi-Fiは総務省が認定しマークをつける等してほしい。アプリ事業者も危険な使い方をしている場合は注意喚起のポップアップが出るなど知らせる機能を作してほしい。大人、子どもの意識を高めるため高校生が率先して活動していきたい。

(質問：長野県警 新井氏)

トラブルの相談先は長野県警にもあることを知っているか？

⇒知っているが詳細はわからない。高校生が知るために目立つところに広告を出していただくのがよいと考える。他方、有害なサイトに自ら入ってトラブルに遭うケースなどは警察に相談しづらい。

Dグループ

ネットトラブルには依存やウイルス感染、個人情報の流出等がある。ネットは顔が見られず手口がわからないことが問題。それを予防する対処方法は相手を思いやり想像することが大切。また、授業に集中するため、授業中は預けるのが効果的と考える。個人情報の流出ではネットに書き込まないことを徹底する必要がある。迷惑メール等で流出するトラブルはフィルタリングの使用やメールを無視する等が必要。ルールを決めること、また何かトラブルにあった際は第三者に相談することも重要。この問題は無知の怖さを知る機会を作ることが大切と考えている。高校生が講演して被害の疑似体験をさせることは心に残ると思う。ネットトラブルは他人事ではなく誰の身にも起こり得ることだと伝えたい。

(質問：インターネットコンテンツ審査監視機構 松原氏)

無知を補完するために、理解させて知る機会を作るには具体的にはどうすればよい

か？

⇒生徒会が周知して、講演を受けたり、疑似体験をしてもらうことが効果的と考えている。

Bグループ

受け身では成長しないため講演会を高校生が企画すればよいと考えた。ネットの問題は

①サイト（ワンクリック詐欺）②対人（炎上）③個人情報（流出）の3つに分けられる。③の個人情報に関しては SNS に個人情報を載せないことを発信し、流出した場合の疑似体験をさせればよい。②の炎上では言われて不快なことはしないことを徹底する。小中高が連携して家庭と学校で話し合いを行う。全員で向き合うことが大事。①のワンクリック詐欺に関しては、不当な請求は無視するなど周知していきたい。

大人を対象にスマホ講座を行い、疑似体験で現状を知ってもらうことが重要である。また ICT カンファレンスは高校生自らが主催していきたい。

（質問：総務省 中島氏）

小中高連携と家庭内対策の具体例があれば教えてほしい。

⇒中高の連携は出来ているが、スマホ利用の低年齢化が進む中で、小学生にスマホ利用の基礎を教えることが大切だと考える。家庭連携は例えば我が家では自分の部屋で使うことは禁止している。使用する時間等について各家庭でルールを作ることが大切と考える。

Eグループ

SNS の使い方や架空請求の問題を中心に考えた。予防、対策としては、企業に同意書を短く簡潔にしてもらうことが必要と思う。アプリのダウンロードの際、利用規約が出てくるが、長くて内容が難しく読まないで同意する人が大半である。リスク軽減のため簡略化してほしい。冊子では読まないのでもポスターや動画等、絵だけで伝わる啓発を作成する。クラス単位で被害に合う確率の当たりが入ったクジを引き、トラブルにクラスで何人合うか身近に感じてもらうことも効果的だと思う。また誰でもわかる簡単で覚えやすいキャッチフレーズを作成するアイデアもある。スマホは、授業中は回収がよい。スマホ世代である私たちが親や小中学生にそれらを伝えることでネットトラブルを回避させていきたい。

（質問：長野県 松村氏）

高校での取組みでは大人が作ったルールは抵抗があると思う。周りを巻き込むためのアイデアはあるか？

⇒スマホを授業中に回収することは、「授業をしっかりと受けよう」と生徒から出た意見だった。他校では PTA から回収の話が出たこともあると聞いている。

スマホのトラブル事例は作りづらいのではないかな？

⇒ながらスマホや著作権侵害を扱ったことがある。

《講評》

(茨城県メディア教育指導員連絡会 会長 堤 千賀子氏)

長時間にわたる議論でも集中力が途切れず、またグループの打ち解けがとても早く感心した。グループ発表も大変工夫されていた。

企業講演の「シンギュラリティ」で人工知能が人間の脳細胞の数を超えるという時代を迎える話では皆さんの表情が変わった。皆さんは次の時代に挑戦していく世代であることを感じた。スマホを回収管理している学校があったが、辞書として使ったりもしている、手放せないものをみなさんに与えている責任は大人を含めて全員で考えなければならない。

カンファレンスに集まった生徒の皆さんはネットリテラシーを広げる使命感、正義感を持って参加した。バーチャルリアリティや芝居などで対策を広げていく手段を考えていた。自分たちが伝えることの効果が一番気がついている。ぜひ皆さんがさまざまなことを知り、知らない人に知らせてあげてほしい。また、皆さん自身もまだまだ知らないことがあると今回自覚できたと思う。多くを学び企業や県などに意見してほしい。自分がネットメディアでどう振る舞うべきなのかという課題からは逃げられない時代となる。

また、講習を受けるだけでは防げないこともある。「いじめ」でどう振る舞うか、どう啓発するか、逃げられない立場にある。道徳の授業を増やせば人の気持ちが変わるのか。一つの解決策として「リア充」がいいと思っている。現実には顔を見て情報交換をすることに勝るものは無い。

情報モラルに関して高校生のみなさんがいい社会を作ることにくじけず、みんなが人間フィルタリングになって、学んで、下の世代に伝えていくことを担ってほしい。

《閉会式、サミット代表発表》

(サミット代表 長野商業高校 森田 陽 さん)

長野県代表として自分が学んだこと、授業で学んだこと等を全国に伝えていきたい。

(閉会あいさつ 長野県教育委員会 心の支援課長 原 良通氏)

高校生のみなさんにとって、日ごろ知らない人たちと議論出来て貴重な体験になったのではないか。同世代が一生懸命リアルなコミュニケーションで熟議を行っている姿を見て、みなさんの可能性や仲間と解決に向かうエネルギーを感じた。各自がフロントランナーになり、校内で具体的に活動してほしい。また自分の学校だけでなく周りの学校や本日参加の他校とも連携してほしい。みなさんが中心となって小中学生や保護者にリテラシー教育を行ってほしい。

参加校：

長野県伊那北高等学校
長野県茅野高等学校
長野県駒ヶ根工業高等学校

	長野県高遠高等学校 長野県松本県ヶ丘高等学校 長野県諏訪実業高等学校 長野県長野商業高等学校 長野県長野西高等学校 長野県長野東高等学校 長野県東御清翔高等学校 長野県明科高等学校 長野県木曾青峰高等学校 (順不同)
日 時 :	2016 年 10 月 1 日 (土) 10:00-17:00
場 所 :	安曇野市明科公民館 (長野県安曇野市明科中川手 6824 番地 1)
参加人数 :	熟議参加生徒 42 人 見学者・関係者 43 人 (教員・教育関係者・その他) 合計 : 85 人
熟議グループ :	熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。(敬称略) 【グループA】 6名 長野県伊那北高等学校 2 年男子、長野県木曾青峰高等学校 2 年男子、長野県駒ヶ根工業高等学校 2 年男子、長野県茅野高等学校 3 年女子、長野県東御清翔高等学校 2 年女子、長野県長野西高等学校 2 年男子 [ファシリテーター] 株式会社サイバーエージェント メディアサポート室室長 中村 広毅 【グループB】 6名 長野県伊那北高等学校 2 年男子、長野県駒ヶ根工業高等学校 2 年男子、長野県東御清翔高等学校 2 年男子、長野県長野商業高等学校 3 年男子、長野県長野西高等学校 2 年男子、長野県長野東高等学校 3 年男子 [ファシリテーター] 高校人権教育研究委員 本田 真 【グループC】 6名 長野県伊那北高等学校 2 年女子、長野県駒ヶ根工業高等学校 2 年女子、長野県東御清翔高等学校 3 年男子、長野県長野商業高等学校 3 年男子、長野県駒ヶ根工業高等学校 2 年男子、長野県長野東高等学校 3 年男子 [ファシリテーター] 高校人権教育研究委員 召田 誠 【グループD】 5名 長野県駒ヶ根工業高等学校 2 年男子、長野県高遠高等学校 3 年男子、長野県長野商業高等学校 3 年男子、長野県長野西高等学校 2 年女子、長野県長野東高等学校 3 年女子、長野県松本県ヶ丘高等学校 2 年男子

〔ファシリテーター〕
信越総合通信局 岩田 章

【グループE】 6名
長野県明科高等学校3年女子、長野県駒ヶ根工業高等学校1年男子、長野県諏訪実業高等学校3年男子、長野県高遠高等学校3年男子、長野県長野西高等学校2年女子男子、長野県松本県ヶ丘高等学校2年男子

〔ファシリテーター〕
上田市教育委員会 矢澤 智都枝

【グループF】 6名
長野県明科高等学校3年女子、長野県木曾青峰高等学校2年女子、長野県諏訪実業高等学校3年男子、長野県高遠高等学校3年男子、長野県長野西高等学校2年男子、長野県松本県ヶ丘高等学校2年女子

〔ファシリテーター〕
長野県県民文化部次世代サポート課 内山みのり

【グループG】 6名
長野県明科高等学校3年男子、長野県木曾青峰高等学校2年男子、長野県駒ヶ根工業高等学校2年男子、長野県諏訪実業高等学校3年女子、長野県茅野高等学校3年女子、長野県長野商業高等学校3年男子

〔ファシリテーター〕
高校人権教育研究委員 小林 嘉孝

4. 主担当

安心ネットづくり促進協議会		事務局、庶務
ソフトバンク株式会社	石原、氷見	運営アドバイザー、企業講演
(一社) インターネットコンテンツ審査監視機構	西澤	企業講演
株式会社サイバーエージェント	中村	ファシリテーター
各地力団体、自治体等		ファシリテーター、受付 他庶務

(敬称略)

5. 高校生 ICT Conference 2016 サミット

高校生 ICT Conference 2016 サミットは、各地で開催された Conference の成果を高校生の代表として提言をまとめるための場です。その代表者の選考は以下の手順によります。

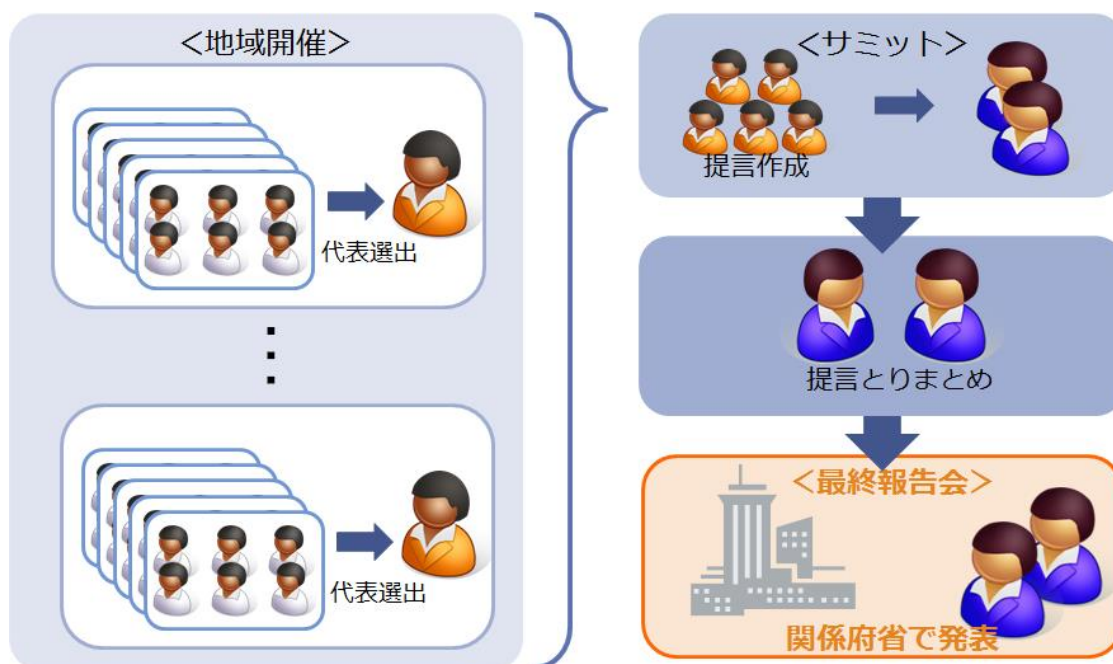
- 1) 参加が決まった場合、参加生徒を決めていただき、事前に登録をする
- 2) 熟議終了後、参加校代表生徒の投票を基に代表を選出
- 3) 各地の代表者でサミット開催
- 4) サミット終了後、最終報告会で発表する代表（2名）を上記手順と同様に選出
- 5) 最終報告会代表者が、サミットの内容を提言にまとめ、最終報告会で提言発表を行う

6. 高校生 ICT Conference 最終報告会

高校生 ICT Conference 2016 サミットで検討された提言を、選出された代表者が報告用にとりまとめを行い、関係府省にて報告を行うとともに、関係府省担当者との意見交換によりコミュニケーションを踏む。

【報告先予定府省】

内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、消費者庁



7. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応

- 1) グループ発表資料保存（又は模造紙など発表紙面の撮影）
- 2) Conference 終了後、発表内容、講評と併せて高校生 ICT Conference のサイトにアップデート
- 3) 高校生 ICT Conference 2016 サミット終了後、実行委員会にて取りまとめ
- 4) 高校生 ICT Conference 2016 サミット代表者による最終報告会用資料の作成
- 5) 最終報告会での発表

以上